

町民の声

最近思うこと

ボランティア

「ボランティアなんかどうしてするの。得にもならないのに」と言われることがあります。このあいだもボランティアをしている知り合いの人が「自分の気持ちわかってくれない」と言って、次のようなことを話してくれました。

「自分は歳も80を過ぎ後が少なくなってきた。今は元気なから自分出来ることで、社会のためになることをしたい。それをするのが生きがい」と言って、この方は、歩道の横の草花や植木の世話をしたり、小さな菜園で無農薬、有機肥料栽培で育った野菜を無償で提供したり、これまでの経験を生かして一生懸命働いておられます。ところがあるとき「おいさん、何の得にもならんじやろう」「見て

くれが悪い。もつと上手につくらんけん」と言われ、「何も解って居らん」と少々憤慨していました。

この方のお話ですと、お父さんはお百姓で、堆肥や無農薬（当時は農薬がなかった）で育てた野菜

を近所の非農家に配って、喜んでくれるの生きがいにしている姿を見てきたそうです。親から受け継いだ性分だと言われます。

半日陰のハウスではなく、太陽の光を充分に受け、堆肥で育てたものは見てくれば悪いが味はいい。その上農薬は使わないから安全な物。と自信満々です。

私は、「あなたの気持ちや、していることを解ってくれてる人は沢山居るは

ず。先の人もいつかは解ってくれる日が来ますよ」と言って励ましました。

この方のように、老年期の元気なひとときをボランティアに生きようとする人が多く出てくることに期待します。あわせて、そういう人を受け入れる環境を整える社会をつくる必要があります。



傍聴席

6月の議会を傍聴して

S・O

今期最後の町議会であった6月議会の本会議を傍聴しにかけました。議員の皆さんがどんな質問をするのか期待して訪れましたが、質問の内容よりも、先

ず3名しか質問者がいなかったのには、本当のところがっかりしました。

そこで私は、改めてこの4年間の一般質問の回数を調べてみました。この間に定例議会が16回開かれていますが、すべての議会に質問している議員は1人で、大半は1〜4回、1回も質問していない議員も数人いました。

議員の仕事は、一般質問するだけではありませんが、町民の代弁者として、議員にしかできない本会議での質問という重要な機会を十分に発揮していないように思います。これでは住

民の付託に応えているとは言えないように思います。8月には任期満了の町会議員選挙があります。立候補される皆さんには、次期は積極的に一般質問をするよう期待をしております。

とくに今は、市町村合併問題が大変重要な段階をむかえつつあり、また小泉内閣の「三位一体の改革」による地方交付税や国庫補助負担金の大幅な削減が検討されるなど、大変な状況を迎えているときだけに、次期の町会議員に選出される皆さんは、町民の要望や利益をまもるために、積極的に質問戦を展開してほしいと要望します。

